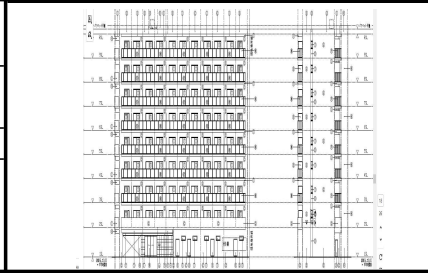


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)JR新白岡駅前開発プロジェクト	階数	地上9F
建設地	埼玉県白岡市	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、防火地域	平均居住人員	88人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	物販店、集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年1月 予定	評価の実施日	2023年11月1日
敷地面積	736㎡	作成者	酒巻純平
建築面積	352㎡	確認日	2023年11月6日
延床面積	2,431㎡	確認者	齋藤茂



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 2.7**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.4**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	居住者が過ごし易い環境を確保する為、特に建物外皮熱負荷抑制に配慮し空調効率など省エネ性を高めることで快適な住戸空間になるよう考慮した。	
その他	特になし	
Q1 室内環境	南側に大きく窓を大きくとることによって、通風ならびに自然換気を考慮した。角の部屋には、2面に窓を設けた。さらに、内装材の選定にあたっては、ホルムアルデヒド等による空気質汚染をおこさない材料を選定した。	Q2 サービス性能
LR1 エネルギー	住戸部の断熱性能について、全住戸において断熱性能等級5相当の性能を確保した。また、一次エネルギー消費量についても住棟で一次エネルギー性能等級5相当としている。	Q3 室外環境(敷地内)
		角地の特性を生かし、沿道には緑とオープンスペースを確保することにより、都市空間の活動上のアメニティの向上に寄与した。一方、隣地との境はフェンスにして防犯性・防災性を図った。
		LR3 敷地外環境
		自転車置き場をしっかりと確保する事により利用者の利便性を計るとともに、自動車利用による交通負荷を抑制した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
 (仮称)JR新白岡駅前開発プロジェクト開発計画 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.7
Q1 室内環境							0.40		-	3.1
1 音環境						4.0	0.15	3.3	1.00	3.4
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音						5.0	0.50	3.6	0.50	
1 開口部遮音性能		アルミ建具は遮音性(T-2)とした		<A-03>		5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能						-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						-	-	3.0	-	
2 温熱環境						3.0	0.35	3.3	1.00	3.3
2.1 室温制御						3.0	0.50	3.7	0.50	
1 室温						3.0	0.62	3.0	0.63	
2 外皮性能		各住戸のUA値が基準UA値0.87に0.85を乗じた値(0.73)以下<根拠資料>				3.0	0.36	5.0	0.38	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.02	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境						2.0	0.25	3.0	1.00	2.8
3.1 昼光利用						1.8	0.31	2.0	0.30	
1 昼光率						1.0	0.56	1.0	0.50	
2 方位別開口						-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備						3.0	0.44	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						1.0	0.28	4.0	0.30	
1 昼光制御		カーテンと庇を組み合わせて制御		<A-29>		1.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.14	3.0	0.15	
3.4 照明制御						3.0	0.27	3.0	0.25	
4 空気質環境						3.0	0.25	3.2	1.00	3.2
4.1 発生源対策						3.0	0.60	3.0	0.63	
1 化学汚染物質						3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気						3.0	0.40	3.6	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		南側に大きめの開口部を設置		<A-18, A-36~40><根拠資料>		3.0	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御						-	-	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	2.8
1 機能性						2.9	0.40	2.6	1.00	2.6
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性						-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応						3.0	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						2.9	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観						1.0	0.02	1.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						2.0	0.02	-	-	
3 内装計画						3.0	0.96	3.0	0.50	
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.5	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		外壁仕上げに磁器質タイルを採用		<A-09,24,25>		5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床・壁・天井共に耐久性を考慮した材料を採用		<A-11,29>		4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						2.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20	-	-	
3 電気設備						1.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						1.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.0	0.30	2.9	1.00	2.9
3.1 空間のゆとり			3.8	0.02	2.8	0.50	
1	階高のゆとり	階高に余裕をもたせて用途・設備の可変に対応可能とした〈A-26〉	5.0	0.60	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		2.0	0.40	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.02	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.96	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		各住戸のUA値が基準UA値0.87に0.85を乗じた値(0.73)以下〈根拠資料〉	4.7	0.20	-	-	4.7
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.82 〈根拠資料〉	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	0.07	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			3.0	0.93	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上げの分別が比較的容易なGL工法 〈A-11,29〉	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.7	0.20	-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.6	0.70	-	-	
1	消火剤		2.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率「85%」	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県 重点項目シート












■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	(仮称)JR新白岡駅前開発プロジェクト	BEE	1.1	BEEランク	★★★
------	---------------------	-----	-----	--------	-----

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.6	+	2.0	=	5.6	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		
	 	  	   		

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.6
<配慮した内容を記述>			
敷地外環境対策の一環として自転車置き場を確保する事により利用者の利便性を計り、自動車利用による交通負荷を抑制した。 また、地球温暖化への配慮については空調の主な使用冷媒をHFCのR32とし、地球温暖化への影響を極力少なくするよう考慮している。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	2.0
<配慮した内容を記述>			
植栽計画においては、角地の特性を生かし角きり部には植栽を設け、沿道の緑の連続性を確保すると共に、地域の街並みや景観へ寄与するべくシンボツリーを配置した。また、側道ならびにアプローチから直接自転車置き場が見えないように、植栽(高木)を設けた。			

:入力欄